

平成14年2月22日

各位

あさひ銀行

### 一部週刊誌の報道について

一部週刊誌において、当行の経営状況や経営戦略に関して、誤った事実や意図的に事実を歪曲して構成した記事が掲載されています。

当行は現在、既に公表致しました経営改革『変革の180日』の中で、海外向け貸出、大企業向け貸出等の低採算貸出の圧縮を進めるなど、収益基盤の抜本的な再構築に取り組んでおります。この改革の進捗につきましては、新聞紙上等で公表させていただいており、改革の最終ゴールである本年3月末を目指して計画を粛々と進めて参る所存です。

当行といたしましては、当行の信用を著しく傷つけるこのような報道に対しては、厳重な抗議を行うとともに、今後も断固たる姿勢で対応してまいります。

以上

(添付資料)

平成14年1月23日付ニュースリリース“『変革の180日』アクションプランの進捗状況について”

平成14年1月29日付新聞公表“『変革の180日』アクションプランの進捗状況について”

平成 14 年 1 月 23 日

各 位

株式会社あさひ銀行 (コード8322)

東京都千代田区大手町一丁目 1 番 2 号

## 変革の 180日』アクションプランの進捗状況について

あさひ銀行 (頭取 <sup>やなせ</sup> 梁瀬 <sup>ゆきお</sup> 行雄) は経営改革プラン、変革の 180日』に取り組んでおりますが、折り返し時点 (平成 13 年 12 月末) での進捗状況をご報告いたします。

あさひ銀行が進める経営改革は、「 . コーポレートガバナンスの再構築」「 . 資産ポートフォリオの再構築」「 . 収益力の再構築」の 3 つを柱として、不良債権や株式含み損の抜本処理等による「健全な財務体質への変革」と、人員削減等の経費構造の改革による「安定的な収益力の構築」を、平成 14 年 3 月末までの期限を設けかつないスピードで実行し、来年度以降の業績の V 字型回復を目指すものです。

### . コーポレートガバナンスの再構築

#### 1. 経営体制の刷新

##### (1) 意思決定の迅速化

経営の意思決定のスピードアップを図るため、13 年 10 月 26 日付で会長職を置かず頭取 1 名体制としたほか、顧問制度を廃止いたしました。

##### (2) 関連会社等の経営陣の刷新

関連会社等の役員定年を 61 才へ引き下げ、13 年 12 月末までに 23 人が退任しました。14 年 6 月にはさらに 25 人が退任する予定で、合計 48 人が退任いたします。

## 2.本部機構改正の実施

13年11月26日付で本部機構の改正を実施し、従来の26部・2室から、16部・1室（10部・1室）へと大幅に簡素化 効率化いたしました。これにより、本部人員の削減を順次進め、14年3月には13年9月比4割程度削減いたします。

## 資産ポートフォリオの再構築

### 1. 不良債権の抜本的処理

#### (1) オフバランス化の促進

破綻懸念先以下の債権の最終処理につきましては、企業再生型 最終処理型等の処理スキームはほぼ固まり、大口先を中心に、ゴールドマン・サックスとの共同スキームやRCCへの売却を行うほか、バルクセールや担保不動産による回収などで処理を進めてまいります。

#### (2) 大口要注意先の引当強化

大口要注意先につきましては、市場のシグナルを反映した引当強化を実施しております。当行は、大口与信先の割合は極めて小さく、このアクションプランの実行により高い引当率でカバーされ、大口リスクファクターへの備えは万全となっております。

### 2. 投資株式含み損の一括処理

投資株式につきましては積極的に売却を行い、13年10月から12月末までの3ヶ月間で約3,300億円の売却を実施いたしました。13年度上半期の約1,700億円の売却と合わせて、年間5,000億円の売却目標を既に達成し、さらに前倒しで売却を進めてまいります。なお、13年12月末の簿価(減損前)は、約1兆3,700億円となっており、11年3月のピーク比約4.0%減少させております。

### 3. 非効率資産の圧縮

#### (1)低採算貸出の圧縮

国内貸出につきましては、年間1兆5,000億円の圧縮目標に対し、低採算貸出を中心に、既に、約1兆1,000億円を圧縮いたしました。また、資産効率を高めるため、昨年12月に住宅ローンの証券化(約1,500億円)を実施いたしました。

海外貸出については、13年12月末で海外支店における顧客取引は実質的に終了し、年間5,000億円の圧縮目標をほぼ達成しております。また、14年3月末までに海外支店の資産についてはゼロバランスとする予定であり、当初計画を半年前倒しで、海外の全支店を廃止することとし、13年12月18日に、金融庁より海外拠点の全面的な廃止について認可を取得いたしました。この結果、平成14年3月末の決算における自己資本比率規制につきましては、国際統一基準から国内基準の適用へ移行することとなります。

#### (2)遊休不動産の売却

13年度下期から14年度までの売却目標500億円(簿価ベース)に対し、12月末までに約70億円を売却いたしました。14年3月末までに合計で260億円程度の売却を見込んでおり、計画の50%以上を今期中に達成する見込みとなっております。

### .収益力の再構築

13年度下期の業務純益は、業務粗利益の増加と経費(人件費 物件費)削減が順調に進み、下期の業務純益目標885億円に対して13年12月末までの3ヶ月で524億円(達成率59.2%)と好調に推移しております。

#### 1.人件費の削減

人件費については、賞与抑制や人員削減によって、13年度下期計画の500億円に対して、13年12月末までの実績は293億円であり、下期計画は達成見込みとなっております。

### (1)賞与の抑制

13年度冬期賞与から、都銀最大の平均26%カット(削減額約30億円)を実施いたしました。

### (2)人員削減

13年下期の1,291人の人員削減計画に対して、13年12月末までに約600人の削減を実施いたしました。今後は、転職支援制度の活用や出向の促進により計画通りに達成できる見込みとなっております。

## 2. 物件費の削減

13年度下期の物件費目標675億円に対して、13年12月末までの実績は287億円であり、計画通り達成できる見込みとなっております。

また、国内店舗の統廃合につきましては、13年度削減目標32ヶ店に対して、13年12月までに既に24ヶ店を削減しており、目標達成見込みとなっております。この結果、14年3月末の国内店舗数は、285カ店となります。

以上の通り『変革の180日』のアクションプランは予定通り順調に進捗しております。3月までの残された期間を、全役職員が心をひとつにして、不退転の決意を持って、掲げた目標の達成に邁進してまいります。

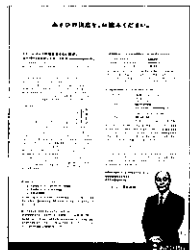
以 上

# あさひの「実行」を、ご覧ください。

## スーパー・リージョナル・バンク(地域金融機関の連合体)へ、 いよいよ秒読み開始。

私たちあさひ銀行は、ひと月後に控えた大和銀行グループとの経営統合の準備と併せ、抜本的な経営改革「変革の180日」に取り組んでいます。本日はこの改革がどこまで進んでいるのかを、皆さまにご報告したいと思います。

ご存知の方も多いかと思いますが、私たちあさひ銀行は、来る3月1日に、大和銀行グループと経営統合いたします。先の臨時株主総会にて、株主の皆さまから統合のご承認をいただき、その準備はさらにスピードを上げ、最終段階へと進んでいます。この統合、そしてその先に展開される「スーパー・リージョナル・バンク」を礎石なものとするため、私たちは昨秋、「変革の180日」と名付けた経営改革プランを発表させていただきました。この改革は、1.)企業統治(コーポレートガバナンス)の再構築 2.)資産構造(ポートフォリオ)の再構築 3.)収益力の再構築を三本柱とし、他に先駆け独自の厳しい基準で策定しました。統合までの半年間で目標をすべて達成し、あさひ銀行への信頼と来期以降の収益の「V字回復」を揺るぎないものとすべく取り組んでおりますが、本日は、その経過報告として、それぞれの計画が予定通り進行していることを、皆さまにお知らせいたします。



平成13年11月27日撮影より

### 1.) 企業統治(コーポレートガバナンス)の再構築についての目標および達成状況

〔経営体制の刷新による意思決定のスピードアップ、お客さま第一主義に基づく新組織の確立〕

- 「会長職を置かない」「顧問制度の廃止」「役員数の削減」等の施策を実施しました。
- 加えて、支店主体の組織とするため、11月に機構改正を実施しました。これにより、まず本部部署を約半減(10部1室削減)。本部人員も今年3月末までに5割削減の見込みです。(平成13年3月末比)
- 同時に、営業推進本部を設置。また、地域担当役員6名を配置、大幅に権限を委譲し即断・即決を可能とするなど、新体制の基礎を完成させました。

### 2.) 資産構造(ポートフォリオ)の再構築についての目標および達成状況

〔不良債権の抜本処理：4,000億円(平成13年度中期)〕

- 大口の信用リスクについては今年度下期に引当を強化し、備えを万全といたします。
- 米国投資銀行ゴールドマン・サックスとの「企業再生・処理の仕組み」や整理回収機構(RCC)の活用に向けた準備を順調に進めています。
- 以上により期末までに予定通りの引当・処理を行います。

〔投資株式の含み損等の一括処理：4,000億円(平成13年度中期)〕

- 投資株式の年間売却目標5,000億円を既に達成しており、3月末の圧縮目標を上回る見込みです。
- 昨年9月末の株価水準となっても損失が出ないよう、予定通り含み損を一掃します。

〔その他非効率資産の圧縮推進：2兆円相当(平成13年度中期)〕

- 収益性と安全性が高い、小口に分散されたリテール中心の資産構造を強化するため、まず昨年末までに、海外支店の貸出資産をほぼゼロとしました。また、リテール以外の非効率資産、遊休不動産の売却等も進め、平成13年12月末実績で、約1兆6千億円の圧縮を実現しました。
- 期末までに予定通りの圧縮を達成見込みです。

### 3.) 収益力の再構築についての目標および達成状況

〔利鞘の改善(国内貸出金利差)：+0.04%(平成13年度中期見込、前年度比) +0.07%(平成14年度中期見込、前年度比)〕

- 平成13年度上期実績で+0.05%(前年度比)を達成しました。
- 信用リスクに見合った貸出金利の設定を、お客様のご理解を得ながら進めさせていただいており、予定通り順調に進行しています。

〔人件費抑制：総額100億円規模(平成14年度中期)〕

- 平成13年度下期の賞与を平均26%削減(都銀最大幅。▲30億円)。採用を抑制。早期退職支援制度等を実施しました。
- 予定通りの抑制効果を達成見込みです。

〔物件費抑制：総額75億円規模(平成14年度中期)〕

- 固定費と捉えられていた部分も含め全費目見直しを実施し、経費構造改革を断行。さらなる絞り込みを進めています。
- 順調に推移しており、下期目標値を達成する見込みです。

〔業務純益：1,900億円(平成13年度中期)〕

- 平成13年4月~12月実績で1,539億円、計画の81%に到達しました。
- 予定通り過去最高水準の業務純益額を達成見込みです。

以上が、皆さまにお伝えしたいあさひ銀行のありのままの姿です。私たちは、経営統合と「スーパー・リージョナル・バンク」の成功に向け、大きく前進しました。「個人、中堅・中小企業のお客さまに特化」「地域に密着」した、わが国の経済活性化に欠かせない銀行として、メガバンクとは一線を画すきめ細かなサービスをさらに充実させていきたいと、一同、決意を新たにしております。

私たちの挑戦は、まだ始まったばかりです。

あさひ銀行のこれからの、  
どうぞご期待ください。

あさひ銀行 頭取 澤瀬行雄

